

<1>2024年(令和6年)11月30日 土曜日

Biz Life Style × 箱根行遊

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

[ビズスタ東京]

2024 11

特別版

『Biz Life Style』は東京、神奈川、関西、
仙台、福岡、広島にて46万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

本紙はスポンサー様の協賛により制作しております。

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは

TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作／株式会社デイリースポーツ案内広告社

〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F

© 2024 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



箱根行遊

My Favorite Life Style



大人のふたりにふさわしい空間で、贅沢な箱根時間を過ごす。

日本有数の温泉リゾート地、箱根。中でも宮ノ下の開湯は約600年前に遡り、「箱根七湯のひとつ」として古くから多くの人々を賑わいをみせてきた。今も由緒正しい高級旅館や伝統のリゾートホテルが建ち並び、開業から20年を経過したばかりの宿ながら「最も予約が取りにくい旅館」のひとつへと駆け上がったのが、温泉旅館の和の精神とパリの様式美が融合する「箱根吟遊」だ。今回は、代表取締役専務の太田明宏氏を訪問。なぜ多くの人々から選ばれるのか、その理由を探るべくお話をうかがった。

「まずは、宿のコンセプトをお聞かせください。開業当時は、温泉宿と言えはまた団体数人のグループ旅行が中心でしたが、まったく異なる発想でのアプローチでお喜び頂きたいと「大人のふたりが上質な休日をお過ごするための旅館」というコンセプトを立てました。

「そのコンセプトが受け入れられて「最も予約が取りにくい宿」という称号に繋がったわけですね。また、リピート率の高さでも有名とか。

「おかげさまで多くのお客様にご利用いただき、中には百回以上もお越しの方がおられます。

「館内の様子を拝見すると、ロビーをはじめ窓から望む風景が格別ですね。

「ありがとうございます。この素晴らしい箱根の自然を五感で心ゆくまで味わっていただくために、非日常を感じる空間設計には細部までこだわっています。ロビーや客室、露天風呂など、あらゆる場所から箱根の四季のベストタイミングを存分にご満喫いただきたいという強い想いがありました。

「最近、新たに鉄板焼きもオープンしたとお聞きしました。

「鉄板焼きレストラン「悠庵」は、連泊されるお客様のためにも新設しました。当宿はプライベート空間を重視し、お食事をお部屋にて提供していますが、今回の鉄板焼きもお客様同士がお顔を合わせないよう配慮し、鉄板焼きでもストレートのカウンターを採用しています。肉は敢えてお肉のブランドを固定せず、その日に最も美味しい肉がお召し上がりいただける環境を整えました。魚も

生け簀を設置しており、常に新鮮な料理をお客様にお楽しみいただきたいと思います。

「また、館内の温泉でも新たな発見があったとか。

「はい、ポーラオルビスホールディングスの美肌温泉プロジェクトが当宿の温泉について分析したところ、正式に美肌の湯であることが確認されました。お湯に含まれる成分と美肌泉質の関連性を調べた結果、成分組成のバランスが美肌作用に影響を及ぼしているのだそうです。

「接客マニュアルがないそうですが、宿泊客のもてなしはどうされているのですか。

「お客様お一人お一人の場のお気持ちに合わせた最適なご提案を見つけて出し、全スタッフが自発的に考え、イメージ想像して行動するよう心がけています。たとえば、外国人のお客様は日本の文化を感じるために旅館にお越しになる方が多いので、挨拶も敢えて「ハロー」を使わずに日本語の言葉としたり、振る舞いで接しています。

「接客マニュアルがないというのは、その場その場で対応が異なるので、スタッフ全員が考えて行動することなのです。

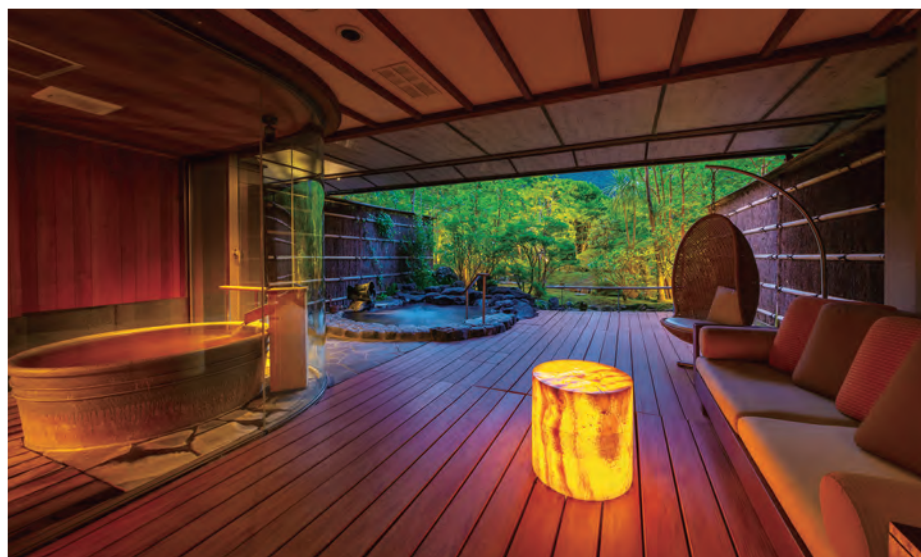
「過ごし方は十人十色ですので、マニュアルがないというより「作れない」というのが本音です。お客様目線に対応することは当然として、一歩先を読み過ぎては通過ぎてはいけません。半歩先を読んで行動することで、心地良さを演出できればと考えています。

「最後に、今後の展望をお聞かせください。

「近ごろではホテルに泊まったこととはあっても、温泉旅館には宿泊した経験がないという若い方が増えています。旅館文化の継承という大げさかもしませんが、当宿のような温泉旅館は日本独自の宿泊施設です。当宿には全室露天風呂付きのプライベートな空間があり、大切な人とのふたり旅という素敵な時間をぜひ体験いただきたいと思います。ぜひ若い方々にも旅館文化を体感頂きたいと考えています。



箱根吟遊 太田 明宏氏



My Favorite Life Style



大切な人とふたり、特別な休日を過ごせる場所。

今や日本を代表する温泉宿のひとつに挙げる旅行ファンも増えていく『箱根吟遊』は、客室全室に専用の露天風呂とオープンテラスを完備。現在では多くの宿で採用されているが、開業当時はほとんど事例がなく、館内各所から望む風景の素晴らしさとともに、宿の評判を押し上げた。

というわけで、最後に「最も予約が取りにくい旅館」の魅力について、駆け足で確認しておこう。

ロビーから湯処までとにかくサッパライズが連続の館内
箱根吟遊は、箱根湯本駅で小田急線から箱根登山鉄道へと乗り継ぎ、宮ノ下駅から徒歩3分ほどの場所にある。スタッフの温かな出迎えを受けてロビーに入ると、目の前には南国のラグジュアリーリゾートを思わせる空間が広がる。

畳敷きに木の骨組みが高く天井まで伸びる風景は、伝統的な日本旅館を想像していると思わず驚きの声が出るほどの異世界感。否が応にも期待が高まるこのオリエンタルな雰囲気は、前ページで話をうかがった太田氏がインドネシアのバリ島を訪れた際に着想を得たものとか。壁面は備長炭、床は琉球畳、その奥の巨大な窓には生きた絵画のような箱根連山の緑彩。このロビー空間だけでも見の価値アリだ。

その隣には、思わず見惚れる展望ラウンジ。座る席によって風景が少しずつ異なり、横に移動するだけでも、あるいは時間の違いによってもパノラマの表情が大きく変化。ここ自体が箱根連山の絶景スポットと言ってもよいクオリティだ。

このフロアは、実は最上階にあたる5階に位置しており、ガーデンラウンジがある1階まで巨大な吹き抜けが館内を貫通。1階に流れる

水音が全フロアにやさしく響くという粋な演出も心地よい。

共用部のハイライトは湯処だ。湯船の水面が奥に広がる箱根連山に溶け込み、自然と一体になるインフィニティデザインも、バリ島の高級リゾートのプールなどで見られる手法。各客室の専用露天風呂も実には質な造りなのだが、この湯処の幻想的な風景はぜひ堪能しておきたい。

森の回廊を抜けた離れに当たる「Ginyu Spa」は、雄大な自然を望むウォーターガーデンや源泉かけ流しの露天風呂、さらにベアルームを完備。パートナーとともに極楽エステを堪能するのもよいだろう。

客室はメゾネットスタイルを含め、4タイプ全20室。食事は朝夕とも部屋食で、バーから飲み物の手配も可能だ。そのほか、中面で軽くご紹介した鉄板焼きレストラン「悠庵」が新たにオープン。太田氏の話通り、ほかの宿泊客と顔を合わせることもなく美味しい肉や魚の至福の料理を満喫でき、連泊の際にはおすすだ。

前述の通り、とにかく予約困難なことでも有名な人気宿なので、ぜひ諦めずに予約のトライを。



宿泊料金(一例)

客室タイプ	風	星		空	月
	(4F) 和室	(3F) 和室・洋室	(3/4F) メゾネット	(2F) 和室・洋室	(1F) 和室・洋室
2名様	¥53,500~	¥44,700~	¥51,300~	¥42,500~	¥54,600~

●左記料金はオフシーズンの1泊2食(サービス料、消費税、入湯税込)、1名様分の平日料金です。

●休前日、またシーズンにより宿泊料金の変動がございます。詳しくはHPのROOM RATE LIST、またはお電話にてお問い合わせください。

鉄板焼き「悠庵」 (要事前予約) ■宿泊ゲスト1名(税込) お魚コース/6,600円~ 伊勢海老・鮑コース/13,200円~ お魚・伊勢海老・鮑コース/19,800円~
■鉄板焼き限定ゲスト1名(税込) お魚コース/16,500円~ 伊勢海老・鮑コース/22,000円~ お魚・伊勢海老・鮑コース/28,600円~



神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下100-1 TEL.0460-82-3355
チェックイン14:00、チェックアウト11:00

アクセス 電車/箱根登山鉄道「宮ノ下」駅から徒歩3分
車/小田原厚木道路小田原箱根ICより国道1号線約20分

www.hakoneginyu.co.jp